

「若者カフェ」の成果報告書が提出されました

1 要旨

人口減少が見込まれる中、より多くの若者に、本県の未来を自分のこととして主体的に考えてもらうことが重要であることから、若者自身による地域の魅力、課題等を議論する「若者カフェ」を5回にわたって開催しました。

この度、カフェの運営に参画した若者3名が、本年度の「若者カフェ」の議論の成果等を政策推進担当部長に報告しました。

2 開催実績

時期	区分	摘要
R2/9/24	カフェ①	全体の導入（進め方、県勢概要説明） 本県を取巻く自然との共存・共生に係る課題を学習
R2/10/23	カフェ②	自然との共存・共生について議論
R2/11/12	カフェ③	首都圏（本県出身）で働く若者をオンラインで招聘し、本県と首都圏の違いや、“魅力あるの働き方”等について議論
R3/1/14	カフェ④	“新しいライフスタイル”の実践者を招聘し、従来のライフスタイルとの違いや、利点、今後の方向性等について議論
R3/2/18	カフェ⑤	成果発表に向け、①～④の議論を深化
R3/3/11	成果発表	本年度の成果発表、次年度に向けた論点の整理

3 主な成果（議論の取りまとめ結果）

議論のテーマ：“ウィズコロナ・アフターコロナ時代における持続可能な社会づくり”

論点1：本県が有する美しい自然との共存・共生
<ul style="list-style-type: none">・経済的価値（利便性）と自然保護はトレードオフの関係にあるため、双方のバランスをどう取るかが重要・「暮らせる観光地」として、本県の豊かな自然を短期から長期間に渡って満喫できるような取組をしたらどうか・一次産業に若年層が参入しやすい仕組みや、若者をターゲットにした広報が必要
論点2：県内で実装すべき”新しい仕事・働き方”
<ul style="list-style-type: none">・テレワークの標準実装など、個人が働き方を選択できること求められている・仕事と家庭の両立が快適にできる就業環境が必要・年齢や労働時間による評価ではなく、仕事の成果や資質による評価の導入が必要
議論全体を通じての感想等
<ul style="list-style-type: none">・本県にはまだまだ閉鎖的・保守的な印象があり、多様性を容認し、様々な人材が活躍できる柔軟性を備えた社会づくりが必要・居心地が悪いと感じた人は黙って本県を離れていくため、見えづらい声を拾い、社会全体の価値観を変えることが重要

（議論の様子）



グループでの協議



東京で働く先輩に聞き取り



成果報告書の手交